

川西
局地戦闘機「紫電改」
(紫電21型)

童友社 1/100スケールプラスチックキット
製作・文:政府開発援助

1. 紫電改について

海軍局地戦闘機「紫電」は、戦局の悪化と次期主力戦闘機と目されていた「烈風」の開発遅延に対応すべく、水上戦闘機「強風」を急遽陸上機化したものである。短期間で実戦に間に合わせる為に発動機以外はほぼ「強風」の形状を踏襲した「紫電」(11型)は中翼機故に二段引込脚のトラブルが多く、また空力的に洗練されていなかったこともあって、低翼化し胴体を中心に多くの部分の形状を改めた「紫電」(21型)が製造されることになった。この型を「紫電改」と呼称する搭乗員が少なくなかったことから、今日ではこちらが一般的な名称となっている。正式配備された「紫電改」は一部の部隊では華々しい戦果を挙げたものの、生産数は約400機程度であり、戦局を挽回するには至らなかった。

2. キットについて

2009年頃に童友社から発売された完全新金型のキットで、非常に精緻な凹モールドが施されており形状も申し分ありません。塗装済キットで全7種類の塗装パターン(うちシークレット1種類)が存在しますが、ブラインドボックス販売の為選ぶことはできません。なお、小型モーターを同梱した「翼コレクションEX」シリーズからは、「紫電改のタカ」が発売されました(プロペラ回転軸中心にモーター用の軸孔が開けられていることから、開発段階からEX版の発売が検討されていたものと思われる)。

3. 製作と塗装について

比較的新しいキットだけあって再現度は素晴らしく、主脚支柱の追加、脚カバーの薄々攻撃、ピトー管の新造等最小限のディティールアップを行ってストレートに組みました。塗装にはクレオスの「川西 N1K2-J 局地戦闘機 紫電改」用カラーセットや単品販売のラッカー系カラーを主に用い、

機体上面緑→カラーセットの暗緑色(川西系)

機体下面銀→8番シルバー

味方識別色→58番黄橙色

内装等→カラーセットのコクピット色(川西系)

日の丸→カラーセットの紅色(日本海軍機用)

等を使用。機体上面についてはほぼ塗り直し、それ以外は既に施されている塗装を極力活かして加工した部分を中心にリタッチしています。いずれも筆塗りです。

今回製作したのは横須賀海軍航空隊(横空)所属機です。「空の宮本武蔵」と武藤金義少尉の機体を再現すべく、MDプリンタでデカールを自作して機番を「104」に変更しました。リタッチ部分を目立たなくする為にやや濃いめのスミを入れ、半光沢クリアを吹いてツヤを整えています。



前面



後面